

袖ヶ浦市郷土博物館友の会・会報

友の会だより 第55号

発行 友の会事務局

袖ヶ浦市下新田 1133 番地

郷土博物館友の会

TEL:0438-63-0811

FAX:0438-63-3693

発行日:令和6年 6 月 1 日

R6 年度・郷土博物館友の会

総会開催・4月21日(日)

R6 年度の総会は 4 月 21 日 (日) 13 時より根形交流センターで開催されました。

総会は、委任状を含めて 43 名の出席で開催。各グループ(G) 代表から R5 年度の G 活動報告があり、会計担当からは決算報告、監査担当より監査報告があり、その後 R6 年度の事業計画、年度予算も報告され審議の結果、何れの議案も、一括承認可決されました。

新年度は任期途中につき中西会長以下理事、事務局引き続きその任に当たります。今年度、理事は以下の通り。

自然と歴史の散策会 (R6 年 5 月 22 日 (水)) JAXA 筑波宇宙センター他見学

本年度第 1 回目の自然と歴史の散策会は、つくば市の JAXA 筑波宇宙センターと同時管制センター管制室での市地質標本館を見学した。作業状況も見学できた。JAXA では、展示館スペースドームを見学。日本が開発した実験棟『きぼう』や宇宙ステーション補給機『こうのとり』興味深い時を過ごしました。

博物館入館者 100 万人達成!

『おめでとうございます!』袖ヶ浦市郷土博物館は本年、開館 42 年目を迎えますが、この 4 月 21 日入館者 100 万人を到達しました。当日の入館者には市長より記念品が贈呈されました。



ロケット広場の H-II ロケット



総会会議場 (根形交流センター)

R6 年度友の会役員

(4 月 1 日現在)

- 会長 中西明美 (いろは)
- 副 矢野佳次 (土器)
- 副 西原崇浩 (博物館長)
- 理事 矢野佳次 (土器)
- 蜂須賀健二 (風の会)
- 渡辺しず子 (有会)
- 吉田保雄 (仏像)
- 今井久明 (いろは)
- 石井英美 (機織り)
- 中村康司 (盆栽)
- 高橋紀子 (葉月)
- 監事 武田 弘 (風の会)
- 田村 静子 (有会)
- 事務局 多田信子 (事務)
- 篠原美智代 (会計)
- 今井久明 (編集長)
- 庶務 水流拓馬 (副主査)

第 27 回 ミュージアム・フェスティバル開催
日時: R6 年 6 月 8 日 (土) ~ 9 日 (日)



友の会各グループ活動報告

寄稿
「博物館に引き付け
られたきっかけ」
(会長 中西明美 記)

郷土博物館入館100万人達成
おめでとうございます

さて、私が博物館に興味を持
ったのは、開館もない展示の
中に、故郷(三重・松阪市)の近
所の家(竹口家)が、久保田開発
に協力していたと紹介されてい
たのを見たのがきっかけです

江戸時代、伊勢国出身の商人
の中で最も勢力を誇っていたの
が松阪の商人です。改めて江戸

古文書いろはの会 「鎌倉の地名由来 を訪ねて」

昨年、の神田古本祭で手に入
れた江戸の『新版鎌倉名所記』
が実に面白い。鎌倉地名、寺社
縁起由来、伝説伝承と盛沢山。

例えば、鎌倉の地名由来につ
き、この名所記では次のように

紹介『相州鎌倉の郡は、昔大職
冠鎌足公、未だ鎌子と申し頃、
鹿島参詣の時、当地由井の里に
宿し給いける夜、霊夢の事有

時代松阪の資料を読んでみまし
た。当時の松阪は伊勢街道から
も離れており、三井家ほどでは
ないが、五軒豪商という家があ
り地元の発展や教育にも力を注
いでいたことを知りました。

特産物の『松阪木綿』を櫛田川
の便を使って商いもしていたの
でしょう。竹口家を知った事が
私を博物館に引き付けたのです
此度、博物館入館100万人
を達成したこと、開館当時
のことが思い出され懐かしく一
筆取りました。



るによつて、年頃持ち給う鎌を
大倉山の松ヶ丘に埋め給う。こ
の故に鎌倉郡と申也。是によつ
て大倉山を鎌倉山と名付け即
ち鎌を埋み給ひし所は、今八幡
宮御本社の所也」と記す。

この4月中旬早速、鎌倉・浄
妙寺を訪ねた。鎌足様がまだ咲
いているこの寺には、鎌倉の地
名の由来とされる藤原鎌足の
『鎌倉伝説』が残されている。
鎌足は、夢に現れた老人から
『鎌倉をこの地に埋めれば天
下はよく治まる』というお告げ
を受け白狐に導かれるまま鎌
倉を浄妙寺の裏山に埋めたと

今年度の目標は?『全員参
加で楽しく』を目標に掲げ近
隣の市内散策を実行したい
と思っております。昨年は浮
戸川で、新しい袖ヶ浦市を発
見しました。さて今年は、ど

何でも有り会 「近隣市内散策で 再発見を!」

んな発見が待っているかわ
ククワクワク楽しみです。
どうぞ興味の有る方の入会
をお待ちしております。
(会員 樫田ぎん 記)



鎌足稲荷神社

いう。鎌倉の地名は、この鎌
足の鎌倉からうまれたと。

浄妙寺の裏手にある細い
道を登ると鎌足稲荷神社が
ある。奇麗に清掃されていた

この鎌倉伝説をはじめ鎌
倉には、多くの伝承があり、
街角には歴史的記念碑があ
ちらこちらに有る。まさに伝
説の町、歴史の町である。

今年、この名所記を携え
当該地を訪るのが楽しみだ。
(代表 今井久明 記)

機織りの会 「初めてカラムシ を使用」

昨年、カラムシからの糸作
りを開始して紡いだ糸も織
れる位の量にまでなつてき
ました。繊維を裂いて紡いで
の地道な作業は途中、心が折
れそうになり『昔の人達は凄
いね〜』と話しながら進めて
きました。
昔の人達が当たり前にな

っていた作業が技術の進ん
だ現代の私達には、こんな
に難しいのかと、日々作業を
進める中で感じております。
卓上織機で横糸は私達が
紡いだカラムシを使い、縦糸
は別の糸を使用して織りま
す。どんな織になるのか?
今から楽しみです。カラムシ
を使用した機織りは初めて
なのでミュージアム・フェス
ティバルまでに展示できた
ら!いいなと思っています。
(代表 石井英美 記)

R6 年度 8グループ会員数と今年度活動計画(純会員数 59名)

グループ名	代表者		今年度活動計画
1 土器作りの会	矢野 佳次	8	勾玉作り(〜10月)、材料、成形、磨き(〜12月)、土器焼き(2月)
2 凧の会	蜂須賀 健二	15	根形公民館まつり、竹取、凧作り(年20回)小学校凧作り支援
3 何でも有り会	渡辺 しず子	9	市内各地散策(袖ヶ浦周辺神社、木更津鳥居埼、都立林試の森他)
4 仏像を学ぶ会	吉田 保雄	7	定例学習会(隔月第2土曜)、仏像鑑賞会(10月〜2月)
5 古文書いろはの会	今井 久明	10	定例会(月2回、第2、4金曜日)崩し文字判読、結び文化にも
6 機織りの会	石井 英美	4	通年活動(毎週水曜日)。綿と藍の栽培、収穫等、苧収穫
7 盆栽愛好会	中村 康司	3	早春花展、秋季盆栽展 ミュージアム・フェスティバル出展
8 植物画葉月の会	高橋 紀子	7	定例活動(第3土曜日)、植物画学習・製作、作品展示
合計	合計	63	

G 所属 63 名 + 無所属 7 名 - 重複所属 11 名 = 59 名 (R6/4 月現在名簿登録者)

植物画葉月の会 『新しい仲間と共に』

昨年4月に友の会に加えて頂いた『植物画葉月の会』です。今年度は、新たに2名の仲間が増え、現在7名が講師の先生に指導を受け活動中です。

6月のミュージアム・フェスティバルでは、葉書サイズの用紙に植物を画いた作品の展示を予定しております。

普段は、大きな用紙に植物を原寸大で描くため、小さな用紙に植物の一部または縮小を画く事は挑戦ですが、作品を見られた方が『この大きさなら自分

も描けるかも。描きたい!』と思って貰えるよう頑張りたいと思います。

私達は毎月第3土曜日の午後1時半から活動しています。興味のある方は見学にいらして下さい。お待ちしております!



植物画葉月の会会員一同

(会員 小野智美 記)

盆栽愛好会 『早春花展』

3月8日(金)
〜10日(土)

今年は、会場の都合で3月の開催となりました。

ブーゲンビリア・椿など春の装いの盆栽25品展示致しました。特にブーゲンビリアにあつては、作者の苦勞が偲ばれ、温度調節をして開催時期にあわせて満開に仕立て、春の感じを出し、多くの方に感動を頂きました。

時節柄、雨の寒い中でしたが、市内外から400人近いご来場で盛会裏に終了することが

できました。
秋の展示は、10月頃予定しておりますので是非ご来場をお待ちしております。
(会員 鈴木武仁 記)

風の会

『気楽に声かけて!』



日本の風研究の第一人者である故比毛一郎氏の著書によれば、『風が何時、人類の物になったかと言う事は、人類が風と空について初めて疑問を持った時に遡る』と記されている。

昔から風は、我々の身近に有ったもので日本の浮世絵にも描かれていて、子どもから大人まで楽しんで上げていました。一方、現代の子どもにとつては、身近なものではないですが自分で作って揚げてみれば、風の楽しさが実感できると思います。皆さん、一度風を揚げてみませんか!

風の会では、皆様に接する機会がありますので、その時は気楽に声をかけて下さい。

(代表 蜂須賀健二 記)

仏像を学ぶ会 『いちはらの御大師様を鑑賞して』

昨年11月に会員と共に市原歴史博物館で開催されていた特別展『いちはらの御大師様』を鑑賞した。

市原市内の平安時代後期から江戸時代までの薬師如来像をはじめ、日光・月光菩薩、十二神将など42体が展示してあった。職員の説明では、上高根別所山金乗院の薬師如来像は『右手の来迎印から阿弥陀如来だったと思われが、疫病が蔓延して住民が左手に万能薬の入る「薬壺」を持たせ薬師如来にしたと思われる』と話していたのが印象深く感じた。

上総地方を襲った天然痘・麻疹(はしか)など流行り病に住民はお薬師様に救いを求めていたようです。今年度からは、県外の仏像鑑賞も復活させたいと考えています。

(代表 吉田保雄 記)

友の会だより(P3)

土器作りの会 『土器作りの手順 の紹介*その2』

①素材②粘土の粉碎③調合練りについて紹介しましたので今回紹介します。磨きには、ビニール袋(レジ袋)を使うと便利です。

④『成形』 練りから概ね2週間程寝かせ素地(きじ)を馴染ませます。この素地を使って下の写真はその時のものです。6月のミュージアム・フェスティバルで展示しますのでご覧ください。

⑤『磨き』 成形から1〜2週間後、形がある程度安定したところまで表面の磨きをかけきれいに完成です。土器に限らず土偶などもほぼ同様です。

地を積み上げていきます。形を整え(調整)、文様などを付けて完成です。土器に限らず土偶などもほぼ同様です。

興味のある方は、一緒に如何ですか!入会お待ちしております。



土器焼き現場にて

(代表 矢野佳次 記)

募集

前回の友の会だよりで博物館周辺文化財のガイドボランティア立ち上げの呼びかけをしました。同好の志の方ご連絡お待ちしております。

(世話人 今井久明)

第172回袖ヶ浦学開催

『密着！ちばの生物多様性』

千葉県自然保護課生物多様性センター兼千葉県立中央博物館

下稲葉 さやか氏

『生物多様性』最近よく聞きますが、具体的にはどういうことを意味するのか、クイズを交えての大変分かり易く示唆に富む講演でした。印象に残ったのは、次のとおりです。

まず生物多様性の意味するところから説明がなされた。

1、生物多様性について

生態系には4つのサービス提供があると言います。

① 植物の光合成や微生物や昆虫が土を作る土壌形成や水の循環などの基盤サービス、②日々の衣食住の生活に必要なものが得られる供給サービス、③其の生態系が大气や水をきれいにし、気候を調整して自然災害を防ぐ調整サービス、④森や自然のやすらぎを与える文化サービス

生態系には以上の働きが交互に行われており地球上の生物が恩恵に預かっていることが説明された。

その上でその生物多様性に迫る危機があることは、近年の自然災害の多発などを通じ



講演風景 (根形交流センター)

て気候変動がその要因の一つとして身近に感じられる。又開発や乱獲による種の減少絶滅、生息地の減少。里山の手入れ不足による自然の質の低下、外来生物の持ち込みによる生態系のかく乱等の生態系の危機につき説明がありました。

2、千葉の生物多様性について
千葉県にいる陸上の哺乳類は現在34種類その内外来種は12種にも及ぶという。ちなみに隣の埼玉県では、55種類と多い。又千葉県で、明治以降絶滅種は、ニホンアシカ、ニホンカワウソ、ヤマコウモリ

などがあるとのこと。又埼玉県にいて千葉県にはいない哺乳類は、ツキノワグマ、ニホンカモシカ等があげられます。3、一方植物については、レッドデータブックという赤い厚い本が紹介された。

これは、絶滅種と危惧種をリスト化した基礎資料で、絶滅危具種の情報等を発信し多くの野生生物への理解を深める役割があるとのこと。

現在、千葉県で選定された絶滅危惧種は、1150種にも及ぶそうです。

絶滅ランクに選定された種の傾向として①藓苔(せんたい)類でミズスギモドキ(清澄山系の谷間)②藻類でオトメフラスコモ(手賀沼他)などが紹介された。



オオフサモ (特定外来生物)

外来種では、当市内でも見られるオオフサモ、定着すると駆除が困難で水路などの通水機能疎外、営農への被害、水質悪化などの影響が大きく監視が行われています。

最後に、『千葉県にしかない生物多様性を守る為、身近な生き物が減っていないか、外来の生き物が増えていないか、日頃から自然に興味を持って観察してください。』と講演を結ばれました(事務局 記)



博物館からの
お知らせ

●企画展・開催中

『出羽三山と

袖ヶ浦の山岳信仰』

○期間 7月15日(月)まで

当市内にも出羽三山の登拝記念石碑など昔からの信仰の足跡が多く残っています。長い間、地域の人びとの心を支え続けた、はるか東北の三山への信仰、その魅力と秘密を探ります。



編集後記

昨今、物の値段があがり友の会でも諸経費を如何に節約するか議論も切実だ。

特に郵便料金の値上げも控えて、通信費を如何に抑えるかが議題に上がる。

現在、多くの方がスマホを持っているので是の活用は時代の趨勢だろう。

例えば、いろはの会では、全員グループラインに入り、連絡や例会の内容、進捗情報など、ラインで報告しており、当日欠席しても会の進捗と内容など把握できる様になっている。

そこで、事務局から友の会会員への連絡(会議通知、行事連絡)は早急にメール等の連絡に替えていき、又会員側からも情報取得するという点では、友の会の掲示板をつくる事も必要だろう。

つまり事務局側からの発信はメール等。会員側からの情報取得は掲示板を見に行く。この両面で対策すれば、通信費や、事務労力は合理化されるところ。又、どうしても従来型を希望する会員には、郵便(葉書)の方法をとる。

今期、友の会役員会で具体化の検討を進め、出来る所から実施して行く様希望します。

(編集担当 今井久明 記)